

1. 問題提起

私が期末課題のテーマとして掲げたのは、人が訪れず、閲覧されることのない地域の資料館や資料についてである。以前坂城町にある坂木宿ふるさと歴史館を訪れた際、私以外の来館客の姿が見られなかった。そのうえ、人が来たことを受付の方が驚かれたように感じた。このような観光客だけでなく地域住民も訪れている感じが感じられない地域の資料館は少なからず存在すると考えている。

また、このような資料館や展示されている資料は、地域の個性や特徴を色濃く表すものであり、先人によって受け継がれてきたものである。そのため、地域学習やまちづくりなどの活動を行う上で重要な資源である。だが、講義の中でもあったように、地域学習で学んだことが身につけていない、地域学習を指導できない教員の存在などが現在課題となっている。

以上の課題から私は、人が訪れない地域の資料館及び閲覧されていない資料について、今後どうあるべきなのか探りたいと考えた。

2. 要因について

資料館に人が訪れない、資料が閲覧されないことの要因として、自分の住む地域に愛着がなく、地域歴史や文化に興味がない地域住民の存在や、観光地としての面に関心のない観光客の存在が挙げられる。住民だからこそ地域の魅力より難点が見えやすく、都市でない地方の方では特に商業施設などがなく「なにもない」と捉える人は多いだろう。興味のない場所に愛着が湧くことはなく、地域学習も身につくことはないと考える。また、SNSが普及した昨今、写真映えがする景観や施設、資源など、観光地に来たことがわかりやすいものに関心が向きやすいと感じている。地域の資料館や展示されている資料はシンプルで素朴なものが多く、そういった写真映えするものを求める観光客は、資料館や資料に関心を抱かないのではないだろうか。

3-1. 解決策：デジタルアーカイブ化

このような現状の打破のためには、まず地域に興味関心を抱いてもらう必要がある。幅広い資料のデジタルアーカイブ化と、それに地域住民が携わることを解決策として挙げたい。

地域学習を行う際など、その手段が面倒であることは興味関心が削がれてしまう要因になると考えている。そのため、地域に対する興味関心を促進するためには、資料の閲覧などの手段を手軽にする必要があると考える。資料館に足を運ばずとも、資料を調べることができるようになるほか、書誌データや解説文からの検索も可能になる資料のデジタルアーカイブ化は、これに適していると考えた。

デジタルアーカイブ化を行う資料について、古文書や古地図、地域にゆかりのある人物に

関する資料などのような紙媒体資料のほか、映像や音声など別の形の資料も対象にしたい。伝統芸能や民話、生活文化などには、地域の天候や暮らしぶりなどの環境が如実に表れるものだと考えている。このような形のない地域文化や歴史は継承すべきものだが、紙媒体だけでは細部など不足する点があるうえ、生活は時代によって変化する。そのため、上記のような形のない文化は失われやすい傾向にある。継承が途切れ、実際に行う人がいなくなっても、「この地域にはこのような文化があった」ということを後世に残すためには、映像や音声などの形でアーカイブ化を行う必要があると考える。秋田県立図書館で行われている、「語り部による秋田の民話」などが例に挙げられる。

また、幅広い資料の保管のため、県立長野図書館や岡山県立図書館で行われているように、図書館や文化財センターなど他の公共施設との連携を図る必要もある。

3-2. 解決策：住民参加型のデジタルアーカイブ化

先述したような資料のデジタルアーカイブ化が行われても、活用する地域住民や観光客がその存在や意義を知らなければ意味はなさないだろう。また、デジタルアーカイブ化の事実を知っていても、地域に対する興味関心がなく、地域のことを他人事として捉えていれば、活用することはないだろう。地域住民と協働して資料のデジタルアーカイブ化に向けた作業を進めることで、地域を改めて知ることができると考える。地域のことを自分事として捉えるきっかけになり、地域に対して興味関心や愛着がわき、資料の活用につながるのではないだろうか。

作業としては、掛け軸など各家庭に眠る活用されていない資源や過去の地域での暮らしぶりがわかる写真、観光パンフレットなど様々なもののデジタルアーカイブ化が挙げられる。これらは地域に暮らしてきた住民だからこそ提供が可能なものである。提供だけでなく、利活用の方法をともに探ることで、より地域を自分事として捉えることができると考える。また、これは資料の保存だけでなく、住民の地域に対する興味関心を養うことができるという点から、今後のまちづくりや観光活動でも住民参加型での活動が行えることが期待できる。この実現のためには、県などの大規模ではなく市町村のような小規模での活動を行うべきだと考える。

4. まとめ

以上のように、人が訪れない資料館や閲覧されない資料に関する課題について、地域に対する興味関心を促進するために上記のような対応をとるべきだと考える。また、地域資料の活用は、地域学習だけでなく、まちづくりや観光活動など地域活性につながる場合もある、重要なものであると感じた。ただ単に「資料の保存」という観点だけではなく、地域がどのような個性や特徴を持っているのか知り、どのような対象を資料活用のターゲットにするのか、今後どのように資料やまちを活用していきたいのかなど、に対応した資料の活用方法や観点を見つけ、広い視野で行っていくべきものであると感じた。